

## 下衣下着の着装が温熱生理反応に及ぼす影響

○青木千賀子\* 小笠原玉己\*\* 山田陽子\*\* 大野静枝\*\*

(\*日本大短大, \*\*日本女大)

<目的>上衣下着を中心とした下着着装の相違が、温熱生理反応と着用感に影響を及ぼすことはすでに報告した。そこで、本研究では最近脚光を浴びているソフトガードルを含む下衣下着を中心に着用実験を行い、それらの着装の相違による温熱生理反応への影響、特に腹腰部周辺の温度変化について、検討を試みた。

<方法>被験者は健康な女子学生3名で、環境条件は気温22℃、相対湿度65%に設定した人間環境制御装置室内で行った。着衣条件は、基準着衣(トレーナー、スカート、ブラジャー、ショーツ、ストッキング、靴)に下着を組み合わせたものとし、下着は以下の5条件とした：①下着なし、②スリッパ、③ガードル、④フレアパンティ、⑤ペチコート。

実験スケジュールは、20分間の椅座安静を保った後、運動負荷として15分間トレッドミル上で歩行運動(速度75m/min、傾斜10%)をし、続いて40分間の椅座安静の回復をとった。測定項目は、皮膚温、衣服内気候、総発汗量、着衣質量、および主観的感覚量などである。

<結果>下衣下着の着装別による皮膚温への影響は、腹部においてペチコートが、腰部ではガードルが、また、側腰部では左右ともペチコート、ガードル着用時が下着間において、経時的に有意に高い値を示した。大腿部では、ペチコート、スリッパが高い値を示し、ついでガードルとなり、下着なしとフレアパンティが有意に低い値を示した。平均皮膚温では、下着なしが負荷終了時まで他よりも有意に低い値を示したが、負荷後からはフレアパンティも低い値を示し、下着なしとの間には有意差が認められなかった。総発汗量は、下着なし<ガードル≒フレアパンティ≒ペチコート<スリッパの順となった。これは、下着の被覆面積、及びクロー値の順位とほぼ一致した。